

Title	メインバンクの保険機能について
Sub Title	
Author	下垣公孝(Shimogaki, Kimitaka) 藤枝省人
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1994
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1994年度経営学 第1091号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1091

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	下垣 公孝 (株式会社 あさひ銀行)	主査 藤枝 省人 副査 鈴木 貞彦 河野 宏和
所属	藤枝 省人 研究室	

メインバンクの保険機能について

日本の金融システムの特徴の一つにメインバンクというものがある。メインバンクと企業の関係は、メインバンクの貸出額が最大であること、主体的に支援を行うことなどがあげられている。

本研究においては、一般にメインバンクの保険機能と呼ばれる、企業の経営危機時にメインバンクが行う企業への経営支援を取り上げた。それは従来の研究において、メインバンクと企業の間、個別の機能について多くの企業の静的なデータ分析による傾向を示すに止まり、実務との乖離を実感したからである。したがって、もっと多様で変化に富む行動を、あさひ銀行と蛇の目ミシン工業の10年以上にわたる事例研究において明らかにしようとしたものである。

さらに銀行実務に関わる者として、企業をとりまく環境変化の中にあり、企業の再建という案件をどのように捉えるべきなのか考えてみた。メインバンクが行う企業の経営支援は、高いリスクと高いリターンをもたらす可能性があり、バランスシートの修復を通じて株主資本価値の最大化を目指すことである。このようなこと、役員等の人材を派遣すること、その企業の株式を銀行の中でもっとも多く保有していること、日常取引が集中していること、企業の経営危機について、文献の研究や先に事例にあてはめて研究を行った。